

ペットといっしょに避難できます

災害時のこころがけ

災害が発生したら、 まずは自分たちの安全を確保

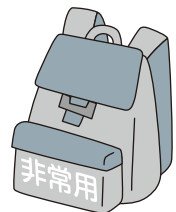
飼い主が無事でなければ、ペットの安全を守ることはできません。

災害が起きたときは、まず自分たちの安全を確認しましょう。そしてペットが無事か確認しましょう。



避難時には避難袋を忘れない

避難袋に用意できないものは身近に置き、一緒に持ち出せるようにしましょう。避難所では基本的に離れて暮らす必要がありますので、しっかりと準備しましょう。



※市ではペット用備蓄はありません。

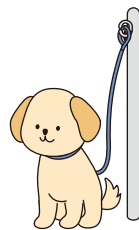
避難はペットもいっしょに

避難が長期間になるかもしれません。ペットに必要なものを事前にしっかりと準備しましょう。



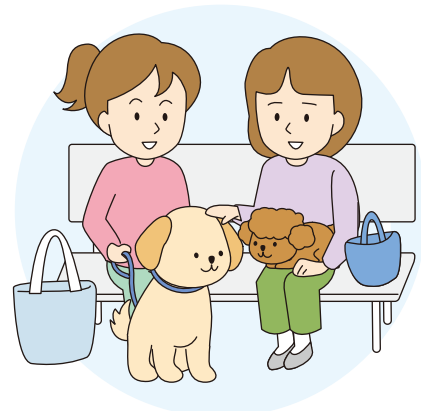
犬には引き綱を必ず付ける

避難所においても、常に引き綱をつけ、放さないようにしましょう。動物が苦手な方もいますので、すぐに対処できるようにしましょう。



協力し合える仲間をつくる

普段から、ペットについて気軽に相談ができる仲間をつくりましょう。いざという時の助けになったり、一時的に動物を預かってもらえるなど、普段からの交流も重要です。

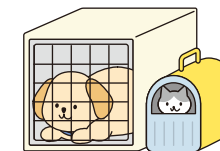


犬、猫、小鳥、小型のげっ歯類等の一般的なペット以外の動物は、避難所での受入れが難しい場合があります。状況によっては、同行避難が難しい事態も考えられます。また、避難所で飼育が難しい動物を飼う場合や、ストレスに弱い動物、特殊な環境を必要としたり停電時に飼育が困難となる動物を飼う場合など、万一のときの預かり先を確保しておくことが大切です。

避難所における動物飼育

それぞれの避難所のルールを守る

避難所は、動物が好きな人、苦手な人、アレルギーをもった人など、様々な人との共同生活を送る場所になりますので、避難所を運営するなかで動物が受け入れられやすい環境づくりが大切になってきます。



ペットの世話は飼い主の責任

避難所におけるペットの世話は飼い主が責任をもって行わなければなりません。

排泄物の始末をはじめ、飼育環境を清潔に保つようにしましょう。

日常と異なる避難所での生活は、ペットもストレスや不安を感じます。ペットの体調に気を配り、不安を取り除いてあげるよう心がけましょう。飼い主同士の話し合いや協力も大切です。

避難所では人の避難スペースでの飼育は基本的にできません!



※ペット避難所のイメージ

同行避難の目的

ペットの同行避難とは「ペットを救うための行動」という目的もありますが、本来の目的は、飼い主がペットとともにためらうことなく避難できるようにすることであり、飼い主を含む全ての住民の安全を確保することです。

過去に、一旦避難した飼い主が、ペットを避難させるために自宅に戻り災害に巻き込まれたケースや、同行避難できずにやむを得ず放たれたペットが繁殖・増加したケースなど、こうした問題を軽減するためにも、飼い主自身でペットとの同行避難に備えておくことも大切です。

また、どのような状況でも必ず同行避難しなければいけないわけではありません。自宅が安全であり、定期的にペットの世話をするために戻れる状況であれば避難所に連れて行かないことも選択肢の一つです。

いずれにしても、毎日の食事と健康状態の確認が大切です。